

水産庁

プレスリリース

平成18年4月13日
水産庁

2005／2006年第二期南極海鯨類捕獲調査船団の入港について

1. 調査船団の入港について

本年度の南極海鯨類捕獲調査(西脇茂利団長(財団法人日本鯨類研究所))に従事した調査母船「日新丸」は以下により入港する予定であり、目視採集船「第二勇新丸」、「第一京丸」及び「勇新丸」は以下により入港した。

- (1) 調査母船: 日新丸(遠山大介船長以下 149名)
平成18年4月14日(金曜日)石川県金沢市金沢港無量寺岸壁
入港式: 午前11時00分～
- (2) 目視採集船: 第二勇新丸(松坂潔船長以下 19名)
勇新丸(三浦敏行船長以下 19名)
第一京丸(廣瀬喜代治船長以下 22名)
平成18年4月13日(木曜日)山口県下関市下関サンセイ(株)下関工場
入港式: 午前11時00分～

2. 調査の概要

- (1) 出港日時: 平成17年11月8日(火曜日)山口県下関港出港
- (2) 調査海域: 南極海のIWC海区のうち第III区東側、第IV区全域、第V区西側及び東側の一部(東経35度～東経175度、南緯60度以南)
- (3) 捕獲頭数: クロミンククジラ853頭及びナガスクジラ10頭
- (4) 実施機関: 財団法人日本鯨類研究所
- (5) 本年の調査の成果

クロミンククジラの発見は1,848群4,917頭であり、従来と比較しても同程度の発見であり、依然として高水準である。

ザトウクジラは、第一期調査時と同様に高い発見数で、クロミンククジラと同様であり、また、分布範囲はさらに調査海域全域に広がる傾向を示し、クロミンククジラをさらに南に押しやっている傾向が見られた。

ナガスクジラの発見数は前回の調査に比べて大きく増加し、分布域も南に広がっている傾向を示した。

調査海域におけるザトウクジラの総生物量(バイオマス)はクロミンククジラを凌いでおり、また、ナガスクジラのそれもクロミンククジラと同等となっており、これら3種が南極生態系の中で大きな消費者と位置づけられていることが示唆された。

クロミンククジラに対する調査の他に、その他の鯨種の調査も実施し、ザトウクジラ、ナガスクジラ、シロナガスクジラといった大型ヒゲクジラを多数発見するとともに、これらの鯨類に対して個体識別用写真撮影や、バイオプシー標本採取、衛星標識の装着等の非致命的調査も積極的に行った。

計量魚探や深度水温塩分記録計、表層生物環境モニタリングシステムなどの観測機器類を用いた海洋環境観測調査も行った。

グリーンピース及びシーシェパードから4週間に及ぶ妨害を受けたが、当初の計画通りに調査が遂行された。

— お問い合わせ先 —

水産庁遠洋課捕鯨班 諸貫
代表電話: 03-3502-8111 内線7242
直通電話: 03-3502-2443

[ページトップへ](#)

Copyright:2007 Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話:03-3502-8111(代表)

水産庁